

# 群馬県文化振興指針(仮称)素案

---

平成24年11月12日

群馬県生活文化部文化振興課

# 目 次

---

第1章	群馬県文化振興指針(仮称)策定の基本的な考え方	・・・	P 3
第2章	群馬県の文化の特性と現状	・・・	P 5
	・群馬県の文化の特性		
	・群馬県の現状		
	・本県の文化の現状、県民等の文化行政に関する意識調査結果		
第3章	群馬県の文化の限りない可能性	・・・	P 26
第4章	群馬県が目指すべき文化行政の方向性	・・・	P 30
第5章	指針の推進に当たっての考え方	・・・	P 32
第6章	基本的な文化振興施策	・・・	P 33

# 第1章 群馬県文化振興指針(仮称)策定の基本的な考え方

## 趣 旨

「文化県群馬」宣言(昭和56年3月群馬県議会決議)から平成23年3月で30年が経過したことから、群馬県の文化的風土を再評価し、文化行政の目指すべき方向を定めるため、群馬県文化基本条例を制定(平成24年4月1日施行)しました。

群馬県文化振興指針(仮称)は、文化行政の目指すべき方向の骨格を示す同条例の各規定を踏まえ、文化の振興に関し、総合的かつ効果的な推進を図る基本的な施策を示すために策定するものです。

## 計画期間

平成25年度から平成29年度までの5カ年計画

## 構 成

本県の文化の特性、現状と課題について分析を行い、先人から受け継いできた本県が持つ文化の限りない可能性を探ります。次に、そうした現状を踏まえ、基本理念、基本目標など、本県が目指すべき文化行政の方向を示すとともに、推進していくための実効性の確保や姿勢を示します。

最後に、県民アンケート調査結果等を踏まえ、文化振興施策を総合的かつ効果的に推進していくための基本的な施策を示します。

<6部構成>

- ①指針策定の趣旨など
- ②群馬県の文化の特性、現状と課題
- ③群馬県の文化の限りない可能性
- ④目指すべき文化行政の方向性(基本理念、基本目標)
- ⑤推進に当たっての考え方
- ⑥基本的な文化振興施策

## 策定の方法

指針は、学識経験者、文化活動を行う者、文化関係団体の代表者等で組織する群馬県文化審議会(群馬県文化振興指針策定部会)において原案を作成し、群馬県議会における審議・議決を経て策定します。

なお、市町村及び文化団体から意見を聞く場を設けるとともに、パブリックコメントの実施により、幅広く県民の意見を聞き、指針に反映します。

## 策定の留意点

### 1 県民の視点による指針策定

県政の基本姿勢である「対話と協調」のもと、県民が何を望み、何を必要としているか、よく把握することが最も重要であることから、アンケート調査やパブリックコメントの実施等により県民ニーズを把握し、県民の視点による指針を策定します。

### 2 長期的なビジョンに立った、真に必要な施策の策定

厳しい社会経済環境を背景に、県民アンケートや市町村、文化団体から要望が多かった施策の重点化を図り、文化振興政策を着実に推進します。

### 3 県民にわかりやすい指針の策定

県民が文化を身近に感じ、自分自身にとっての文化を考えられるような内容を盛り込みます。また、具体的な取り組みや数値目標を設けるなど、できる限り県民にわかりやすい形での明記に努めます。

### 4 県民、市町村との関係

県民、市町村を県が後ろから支えることが県の責務であることを明確にし、そうした視点で各文化振興施策を策定します。

### 5 県総合計画との整合

はばたけ群馬プラン（県総合計画）を補完する文化分野の振興に関する個別計画として策定します。

### 6 必要な見直しの実施

本指針については、諸情勢の変化や施策の効果に関する評価を踏まえ、柔軟かつ適切に見直しを行います。

## 第2章 群馬県の文化の特性と現状

### 群馬県の文化の特性

・古代から東国文化の中心地として脈々と築き上げてきた歴史と多彩な文化に富んだ地域であり、古代の東国文化の隆盛をしのばせる古墳群、さまざまな伝説を持つ由緒ある神社仏閣など、歴史的な遺跡や文化財が数多く存在します。



日本の歴史を変えた岩宿遺跡

東日本最大規模を誇る太田天神山古墳

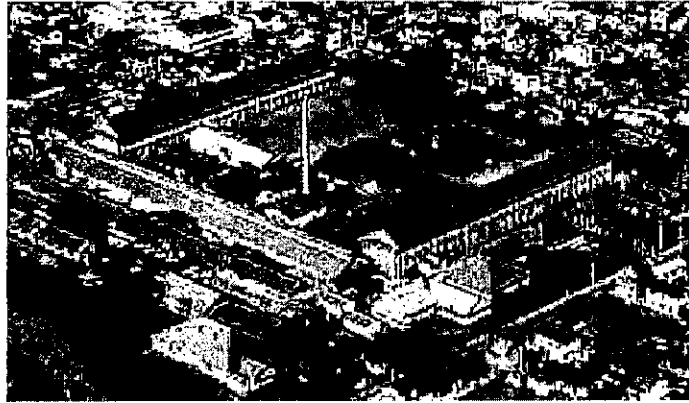
国の特別史跡である「上野三碑」

・私たちの暮らしと文化を支えてきた上毛三山（赤城山、榛名山、妙義山）、利根川のほか、国立公園の特別保護地区に指定されている尾瀬などがあり、本県は貴重な自然の宝庫です。



自然保護の原点といわれる「尾瀬」

- ・近代から現代にかけては産業、教育及び芸術の各分野で輝かしい歴史を有している地域です。  
日本の最先端技術を大きく前進させた「中島飛行機」



日本の近代化に貢献した絹産業群を  
代表する富岡製糸場

- ・地域の絆を強めてきた農村歌舞伎や人形芝居などの伝統文化

- ・生活に根付いた県内各地域の食文化

本県は、冬の長い日照、からっ風、水はけのよい土壌などの生産に適した気候や風土を活かし、古くから水田裏作として小麦が盛んに栽培され、全国有数の産地となっています。このため、県内では、小麦粉を使った食文化、「粉食文化」が根付いてきました。

郷土料理である「うどん」「おっきりこみ（おきりこみ、にぼうとう）」「焼きまんじゅう」「おやき」等は代表的な「郷土料理」です。また、この「粉食」は、現在も受け継がれており、県内には「うどん」「パスタ」「ラーメン」「焼きそば」「もんじゃ」等、小麦粉を使った様々なご当地グルメが楽しめます。

- ・古来より西日本と東日本を結ぶ交通の要衝として発展し、現在も、東京圏、信越地方、東北地方、中京圏を結ぶ交通の結節点として、高速交通の十字軸を形成する新幹線や高速道路網が整備されており、文化が伝播し、交わる地として多種多様な文化が息づいています。

・地方交響楽団の草分けとして長い歴史を持つ“群馬交響楽団”、群馬の歴史や営みを凝縮した“上毛かるた”など、地域に根ざした文化的資産が広く県民に親しまれています。



#### 群馬交響楽団

「群馬交響楽団」は、昭和20年11月、高崎市民オーケストラとして誕生しました。終戦直後の社会を音楽で明るくしようと、音楽家たちが集まり楽団を結成したもので、地方オーケストラとしては最も古い歴史を誇ります。

昭和22年5月から、小・中学校を訪問して生演奏を聴かせる移動音楽教室がはじまり、延べ600万人もの小・中学生が鑑賞しています。

現在は、県内すべての子どもたちが、中学校卒業までに3回、授業で群響の演奏を聴くことができます。



#### 上毛かるた

「上毛かるた」は、昭和22年に作られました。「上毛かるた」の札には、上毛三山をはじめとした県内の自然や温泉、歴史上の人物や地域の産業など群馬県の特徴が読み込まれており、時代を超えて県民に親しまれてきました。

今でも県内の各地域で毎年「上毛かるた」大会が開かれています。

県では、「上毛かるた」の一札一札に取り上げられた事象を解説した冊子を作成し、郷土のことを学習する小学校4年生の副読本として活用されるよう、配布しています。

# 群馬県の現状

## 1 本県の人口の推移等

※人口減少社会の到来と少子高齢化

※人口全国順位19位（平成22年）

全国の人口の推移を見ると、平成22年にピーク（128,057千人）となり減少していくことが予想されています。本県の人口の推移を見ると、平成12年をピーク（2,024千人）に減少傾向にあり、直近では、平成22年に2,008人（全国第19位）となっています。また、本県の高齢化の状況を見ると、直近の平成23年では23.9%となっています。また、24年後の平成47年には34.0%になり、三人に一人が高齢者になることが予想されます。

一方、出生数及び合計特殊出生率の状況を見ると、直近の平成23年では出生率が15,837人、合計特殊出生率が1.41となっています。昭和40年の27,885人、2.21と比較すると△12,048人、△0.8となっており少子化が進んでいることがうかがえます。

人口と高齢化率の推移(群馬県)

	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2011	2015	2020	2025	2030	2035
人口(全国)	99,209	104,665	111,939	117,060	121,046	123,611	125,570	129,925	127,767	128,057	125,430	122,735	119,270	115,224	110,679
総人口(a)	1,606	1,659	1,756	1,849	1,921	1,988	2,004	2,025	2,024	2,008	1,961	1,908	1,845	1,776	1,699
うち65歳以上(b)	110	131	154	184	215	256	313	367	417	470	537	571	575	574	577
高齢化率(c)=(b)/(a)×100	6.8%	7.9%	8.6%	10.0%	11.2%	13.0%	15.6%	18.1%	20.6%	23.4%	27.4%	29.9%	31.2%	32.3%	34.0%

※総務省「国勢調査」(1965～2011)及び国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」(2015～2035)を使用

出生数と合計特殊出生率の推移(群馬県)

	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2009	2010	2011
出生数	27,885	29,429	29,616	25,140	22,917	19,470	19,431	19,445	17,134	17,044	16,310	16,023	15,637
合計特殊出生率	2.21	2.16	1.99	1.81	1.85	1.63	1.56	1.51	1.39	1.40	1.38	1.46	1.41

※厚生労働省「人口動態調査」を使用

## 2 本県の伝統文化の継承状況

市町村合併による地域活動の広域化や農村部での過疎化が進む中、コミュニティが崩壊しつつあり、地縁的なつながりや人と人との絆が希薄になってきています。

県内の伝統文化継承に係る実態調査を平成20年に実施した結果、神楽・獅子舞等の民俗芸能の約4分の1、祭り・行事の約1割近くが「継承の危機」にあることがわかっています。

伝統文化継承状況

民俗芸能				祭り・行事				
総件数	復活	中断中	廃絶	総件数	復活	危機	中断中	廃絶
855	11	197	23	846	5	26	11	37
(構成比)			24.4%	(構成比)				8.7%



### 3 多様な主体による地域づくり

・阪神・淡路大震災におけるボランティアの活躍が契機となって、1998年に特定非営利活動促進法が制定され、NPO\*が活躍の場を拡げており、本県でも、2012年10月末現在で〇〇の法人が認証を受けています。NPOは、これまで地域コミュニティが担ってきた日常の助け合いなどの機能のほか、従来の公共サービスでは十分に対応できなかったさまざまな分野における課題について活動し、定着しつつあります。

・企業においても、地域や社会に対するさまざまな貢献を行い社会的責任を果たそうとする動きがみられ、また、地域住民においても高年齢層（退職した団塊の世代など）の社会参画意識は年々高まっており、社会貢献活動が拡がりを見せています。

## 群馬県の文化の現状

### (1) 文化活動団体数等創造活動

#### ①文化活動団体数

平成21年において各市町村文化協会に加盟している団体数は3,490団体であり、83千人が活動していますが、平成11年と比較すると団体数は△494団体、会員数△31千人となっており、団体数及び所属人数ともに減少傾向にあります。

- ◆文化活動団体数 (単位：団体、千人)  
\*各市町村文化協会加入団体数・所属人数

	H11	H16	H21
団体数	3,984	3,932	3,490
所属人数	114	103	83

(資料) 群馬県文化協会連合会

#### ②NPO法人数(文化芸術関係)

平成21年において文化芸術活動を活動分野の一つに含むNPO法人の割合は40.9%(263団体)であり、全国の33.1%を上回っている。また、平成21年に比べ58団体増えています。さらに、文化芸術活動を主たる活動分野とするNPO法人の割合は9.2%(59団体)となっています。

- ◆関連NPO法人認証数  
\*「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」を、活動分野の一つに含む法人  
(単位：法人(法人総数に対する割合：%))

		H18	H21
群馬県	—	205 (41.7%)	263 (40.9%)
全国計	—	9,590 (32.0%)	12,909 (33.1%)

- \*同分野を、「主たる活動分野」とする法人

群馬県	—	36 (7.3%)	59 (9.2%)

(資料) 群馬県、内閣府

### ③公立文化会館の主・共催公演数

平成19年度46年において公立文化会館が主催または共催の公演をした実施件数は、438544件で全国で第13位となっています。全国平均の468439件を下回っています。

また、時系列で見ると、平成10年度に比べ36件増えています。

### ◆公立文化会館の主・共催によるホールでの舞台芸術・芸術公演の件数

(単位：件)

調査年度	H11	H14	H17	H20
群馬県 [全国順位]	475 [第17位]	504 [第18位]	511 [第13位]	438 [第13位]
全国計	19,210	24,138	20,650	22,014
全国平均	409	514	439	468

(資料) 文部科学省「社会教育調査」 ※数値は、前年度

### ④種類別行動者率 (実践行動)

文化芸術分野において実践をしている者の割合は、平成17年では6.3% (全国第9位) となっている。また、全国平均と比べ+0.2%となっており、実践者が全国的に多いことがうかがえます。

### ◆趣味・娯楽の種類別行動者率

\*芸術分野の実践関連のもの

(単位：%)

	H7	H12	H17
群馬県 [全国順位]		5.9% [第28位]	6.3% [第9位]
全国計		6.5%	6.1%

(資料) 総務省「社会生活基本調査」

H17：楽器演奏、邦楽、J-POP・声楽、邦舞・おどり、洋舞・社交ダンス、絵画・彫刻制作、陶芸・工芸、写真撮影、俳句・小説等創作

H12：楽器演奏、邦楽

\*調査は無作為抽出の為、各回比較は困難

## (2) 県民の文化芸術の鑑賞の動向活動

### ① 県民芸術祭入場者数

県民芸術祭は、平成109年では8384事業、268325千人の入場者がありましたが、平成2320年では14事業が増え9798事業となっているものの、入場者数は190492千人と△78433千人減少していることがうかがえます。

### ②-1 公立文化会館入場者数

公立文化会館で主催または共催する公演の入場者数は、平成19年度46年では、270303千人（全国第1644位）であり、全国平均の279243千人を960千人下回っています。

### ②-2 美術館・博物館観覧者数

県立5館（美術館・博物館）の観覧者数（年間のべ人数）は、平成2320年では、363342千人となっており、います。平成15年に比べ△42千人、平成20年に比べ+21千人います。また、県民会館（ベイシア文化ホール）の利用者数（年間のべ人数）は、平成23年では242314千人となっており、減少傾向にあることがうかがえます。います。

### ◆ 県民芸術祭 入場者数

（単位：千人、件）

	H10	H15	H20	H23
入場者数	268	483	192	190
事業数	83	72	98	97

（資料） 群馬県

### ◆ 公立文化会館での主・共催によるホールでの舞台芸術・芸術公演の入場者数

（単位：千人）

調査年度	H11	H14	H17	H20
群馬県 [全国順位]	328 [第10位]	311 [第16位]	303 [第14位]	270 [第16位]
全国計	11,181	12,283	11,435	13,095
全国平均	238	261	243	279

（資料） 文部科学省「社会教育調査」 ※数値は、前年度

### ◆ 美術館・博物館 観覧者数

\* 県立5館の合計

（単位：千人）

	H10	H15	H20	H23
群馬県	352	405	342	363

（資料） 群馬県

### ◆ 県民会館（ベイシア文化ホール）利用者数

（単位：千人、%）

	H10	H15	H20	H23
群馬県	362	341	314	242
稼働率	60.4%	62.6%	62.4%	

（資料） 群馬県

### ③種類別行動者率（鑑賞行動）

文化芸術を鑑賞している者の割合は、平成17年では16.2%（全国第21位）となっている。また、全国平均と比べ△2.1%となっており、文化芸術の鑑賞者が全国と比べ少ないことが分かります。

また、実践行動と比較すると、本県は鑑賞をする者よりも実践する者が多いことが分かります。

### ◆趣味・娯楽の種類別行動者率

\*芸術分野の鑑賞関連のものの平均値

（単位：％）

	H7	H12	H17
群馬県 [全国順位]		17.8% [第20位]	16.2% [第21位]
全国計		19.2%	18.3%

（資料） 総務省「社会生活基本調査」

H17、H12とも、それぞれ次のものの「鑑賞」

美術、演芸・演劇・舞踊、映画、

音楽会（クラシック）、同（ポップス）、歌謡曲

\*ただしいずれも、テレビ・CD・DVD・ビデオなどによるものを除く

\*調査は無作為抽出の為、各回比較は困難

### (3) 文化施設数及び地方公共団体の予算活動環境

#### ①-1 施設数 (博物館)

博物館数は、平成23年10月1日現在19年では、2324館（全国第20位）となっています。全国平均と比べ△4館となっています。

また、人口100万人当たりの博物館数は、平成19年度で、10.4館（全国第19位）となっています。全国の9.0館と比べ1.4館上回っています。

#### ②-2 施設数 (文化会館)

文化会館数は、平成23年10月1日現在19年では、4243館（全国第16位）となっています。全国平均と比べ+3館上回っています。

また、人口100万人当たりの文化会館数は、平成19年度で、21.4館（全国第16位）となっています。全国の14.8館と比べ6.6館と大幅に上回っています。

#### ◆博物館数 (動・植物園、水族館を除く) (単位:館)

調査年度	H14	H17	H20	H23
群馬県	16	18	21	23
[全国順位]	[第25位]	[第24位]	[第20位]	[第20位]
全国計	1,020	1,105	1,154	1,261
全国平均	22	24	25	27

注) 館数は、調査年度の10月1日現在

#### ◆人口100万人当たり博物館数 (単位:館)

調査年度	H14	H17	H20
群馬県	7.9	8.9	10.4
[全国順位]	[第27位]	[第26位]	[第19位]
全国計	8.0	8.6	9.0

(資料) 文部科学省「社会教育調査」 ※数値は、前年度

#### ◆文化会館数 (単位:館)

調査年度	H14	H17	H20	H23
群馬県	41	42	43	42
[全国順位]	[第16位]	[第17位]	[第16位]	[第16位]
全国計	1,832	1,885	1,893	1,867
全国平均	40	40	39	39

注) 館数は、調査年度の10月1日現在

#### ◆人口100万人当たり文化会館数 (単位:館)

	H13	H16	H19
群馬県	20.2	20.8	21.4
[全国順位]	[第17位]	[第18位]	[第16位]
全国計	14.4	14.8	14.8

(資料) 文部科学省「社会教育調査」 ※数値は、前年度

### ②-3 施設数（公民館）

公民館数は、平成23年10月1日現在、225館（全国第33位）となっています。全国平均と比べ△87館となっています。

調査年度	H14	H17	H20	H23
群馬県	227	227	224	225
[全国順位]	[第35位]	[第34位]	[第34位]	[第33位]
全国計	17,947	17,143	15,943	14,681
全国平均	381	364	339	312

注) 館数は、調査年度の10月1日現在

(資料) 文部科学省「社会教育調査」

### ③地元公共団体の芸術文化経費

芸術文化経費（予算）の決算額（都道府県＋域内市町村文の合計）について見ると、平成9年では7,373百万円、平成19年では4,445百万円となっており、△2,928百万円の減少となっています。平成19年の全国平均は5,195百万円であり、全国平均と比較しても△750百万円下回っています。

一方、都道府県のみ決算額を見ると、平成9年では2,499百万円、平成19年では1,437百万円となっており、△1,062百万円の減少となっているものの、平成19年の全国平均1,250百万円と比べ187百万円上回っています。

#### ◆芸術文化経費の決算額（単位：百万円）

\*都道府県＋域内市町村分の合計額

	H9	H14	H19
群馬県	7,373	6,394	4,445
[全国順位]	[第14位]	[第14位]	[第17位]
全国計	317,427	304,361	244,176
全国平均	6,754	6,476	5,195

\*都道府県分のみ

	H9	H14	H19
群馬県	2,499	2,628	1,437
[全国順位]	[第7位]	[第7位]	[第13位]
全国計	79,991	72,902	58,762
全国平均	1,702	1,551	1,250

(資料) 文化庁「地方における文化行政の状況」

## 日経リサーチ「地域ブランド力」調査結果

◎日経リサーチ「地域ブランド力」47位

### 群馬県の順位

<地域ブランドの魅力点>

温泉 4位



郷土芸能 27位 → 1位 京都府

歴史・伝統 39位 → 1位 京都府

名所と旧跡 46位 → 1位京都府、2位奈良県

イベント・祭り 46位 → 1位 青森県

<地域ブランドから得られる／期待される経験価値>

歴史や文化から学ぶことができる 45位 → 1位 京都府

<都道府県の県内評価>

独自性／愛着度 40位 → 1位 沖縄県



## 群馬県の現状のまとめ

昨今、社会情勢は急速な変化を続け、文化を取り巻く環境も大きな影響を受けています。

### 1 人口減少社会の到来と少子高齢化

人口減少社会が到来し、過疎化や少子高齢化等の影響により、地域コミュニティの衰退と文化の担い手不足が指摘されています。昨今の経済情勢や厳しい財政状況に加え、公立文化施設への指定管理者制度の導入等の影響も指摘される中、地域の文化を支える基盤の脆弱化に対する危機感が広がっています。

### 2 多様な主体による文化活動

これまで県内の文化活動の中心となっていた文化協会に加盟している文化活動団体は減少していますが、文化芸術活動関係のNPO法人は増加しており、多様な主体による文化活動が行われています。

### 3 「官から民へ」

「官から民へ」の流れのもと、民間と行政の役割分担の見直しが図られています。非営利活動やボランティア活動等の活発化に伴って、民間と行政の協働による取組が進められ、企業のメセナ活動も多様な広がりを見せています。

### 4 情報通信技術の急速な発展

インターネット等の情報通信技術の急速な発展と普及は、県境も国境も越えた対話と交流を活性化させ、情報の受信・発信を容易にしたりするなど、あらゆる分野において人々の生活に大きな利便性をもたらす一方で、例えば人間関係に及ぼす様々な影響が指摘されるなど、新たな社会的課題を惹起しています。

### 5 全国平均を上回る文化環境

全国からみた群馬博物館数については全国第20位、文化会館数については全国第16位であり、全国平均を上回っています。文化会館数は全国第16位ですが、公民館数は全国第33位となっていることから、県民により身近な場所において活動する場が少ないことが伺えます。

### 6 本県文化力とブランド力とのギャップ

日経リサーチ「地域ブランド力」では、歴史・伝統や名所・旧跡など、文化に関する地域ブランドの魅力点が低く、全国順位も低いことから、本県の持つ本当の文化力とイメージが結びついていなく、情報発信力が弱いと考えられます。

### 7 選択と集中

厳しい財政状況を踏まえ、支援の重点化、効率化を図りつつ、財政上の措置を講ずるとともに、文化活動を支える環境づくりを進める必要があります。

以上のことを踏まえ、文化振興に関する施策を行っていくことが必要です。